

本時のねらい

文章問題から連立方程式を立式しよう。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・計算アプリを使うことで、計算問題が苦手でもゲーム感覚で基本的な四則演算を学習することができる。
- ・「ミライシード」を使うことで、自分の手で図を動かし問題場面を表して考えることができる。
- ・Forms の問題を選択問題から記入問題を設定することで答えやすくなる。

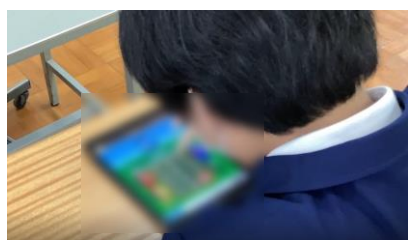
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・ミライシード ・計算アプリ「暗算マン」 ・Forms

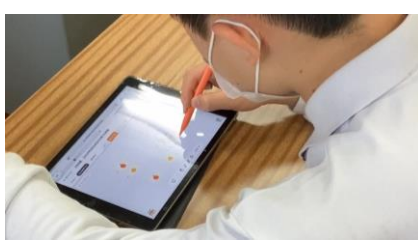
本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10 分)	○基本的な計算練習を行う。 計算アプリ「暗算マン」で基本的な計算の練習をする。 (方程式で使う割り算を中心的に) 【写真 1】	・計算が苦手な生徒でも難易度に応じて自分の状況に合わせて意欲的に問題に取り組むことができる。
展開 (35 分)	○学習課題「文章問題から連立方程式を作ろう」を確認する。 ○ミライシード「ドリルパーク」で前時に学習した連立方程式の計算問題を行う。 ○文章問題の場面を図に表し、式を導く。 問題「リンゴとみかんの数はそれぞれ何個ずつある？」 【写真 2】	・自分が間違えた問題が記録されているので、苦手な問題に焦点化して復習することができる。また、系統的に問題が整理されているので、1 次方程式の単元まで戻って計算の復習をすることができる。 ・ミライシード「オクリンクプラス」で課題カードを送信する。実際に手を使って図を移動させたり書いたりすることで、視覚的にイメージしやすくなり、連立方程式の理解が深まる。
まとめ (5 分)	○「Forms」で簡単な式について答える。 【写真 3】	・本時の取り組んだ内容を見返して自分の力で解く。正誤が瞬時に示されるので、つまづきを把握しやすくなり、その場でタイムリーに支援を行うことができる。

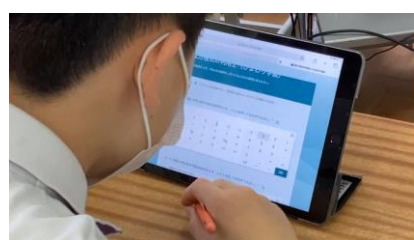
1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】計算アプリ「暗算マン」に取り組む



【写真 2】「オクリンクプラス」で問題場面を図に表す



【写真 3】「Forms」で練習問題に取り組む

児童生徒の反応や変容

・ミライシードの「ドリルパーク」では式を解く流れや、選択する問題等、間違った問題に積極的に自ら取り組むことができていた。
・計算アプリを使用することで、楽しんで基礎的な計算に取り組むことができていた。「オクリンクプラス」を使用することで、問題場面を図に表し、自分のペースで解き進めることができていた。最初は文章から式を立てる活動で手が止まっていたが、図を動かしてイメージを視覚化することで式を立てることができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・計算アプリでは難易度別に自動で出題されるため、自分の習熟度の把握ができていた。また、進度が個人で違っても対応できるのが大きな魅力であった。
・オクリンクプラスを使うことで、視覚的な支援が容易になり、立式などのイメージがしやすくなる。また課題カードから自分の手で図を動かしたり整理したりすることで、問題場面の理解も深まった。
・Microsoft「Forms」は数式入力の設定も可能なので、数学科においては、既成の問題に加えオリジナルの問題を作成する際にとても役立つツールであった。

本時で育む主な情報活用能力

C-STEP 3, K-STEP 3

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。

